

細江カトリック教会だより 2月

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

聖堂再建への夢

この数日、少しずつ工作の仕事に取りかかっています。というのも、9年後の教会と幼稚園の建て替えのために、何度か会合を重ねた委員会では、皆が具体的に想像できるように建物の模型を作って、これを叩き台にして話を進めたらどうか、という提案が出されました。そこで、近藤豊之さんと私とで、発泡スチロールの板を張りあわせ、上に紙をはって色を塗り、100分の1のサイズの模型を作ることにしたのです。

まず、狭い敷地、しかも4メートルの段差のある二つの土地を前提にしています。また、カトリック・センターは18年前に信徒たちの献金で建てたものであり、これを壊すわけにはいきません。信徒の高齢化が進む中で、聖堂はぜひ入りやすい形にしてほしいとの意見が多く、委員会では現在の幼稚園の建物がある場所に聖堂を建て、現在の聖堂とホールがある場所に幼稚園の園舎を建てることでまとまりました。

聖堂は80人が座れるほどの大きさにし、冷暖房のために天井をあまり高くしない。現在の祭壇の背後にあるステンドグラスをそのまま使う。オルガンは祭壇の左側にもっていく。クリスマスなどの行事のときに大勢の人がくることを想定して、幼稚園のホールを隣

接させ、スライド・ドアをつけて席の補充ができるようにする、などが基本的な構想です。聖堂の外観は、これから皆で考えることにして、ひとまず模型を作る際には長崎や五島の伝統的な建物を参考にしました。

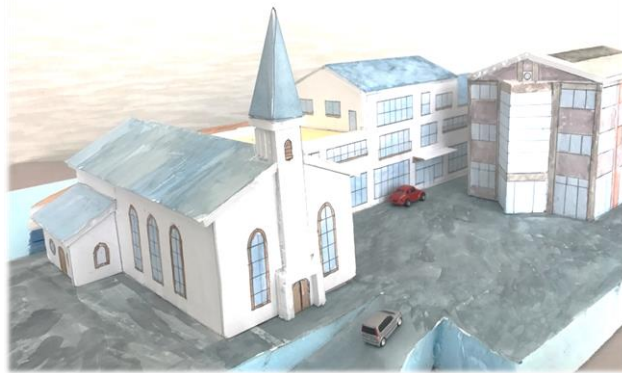
幼稚園の方は、先生方と一緒にいくつかの他の幼稚園の建物を見学にいき、その長所や短所を聞いた上で、新しいホール（教会と共有）、未就園児と預かりの部屋、台所。2階に4つの教室と教員室。教室から直接にグランドに出られるように2階からグランドへ橋をわたし、段差から生じている3メートル

幅の溝を有効利用する。3階は夏のプールを置くための屋上、職員控え室、多目的室。このように間取りを考えてから、それに合わせて建物の外観を作ってみました。

下手な模型ですが、イメージを描くための助けにいただければ幸いです。どうぞ皆さまのご意見を聞かせてください。

9年後には自分はいないだろうと思いつつも、模型を作る作業は夢をふくらませます。主がお望みならば、この教会と幼稚園が委ねられた使命を大切にして、この下関の地に福音の光を灯すものとなりますように。

百瀬 文晃 神父



シリーズ 地区だより IX**「家庭へのチャレンジ」**

チャレンジを(挑戦)と呼んで戸惑った。同居していた父母は帰天、子どもたちは別居で世帯を持っている。家庭=妻と私、時代の流れ、環境の激変、父母の影響は大きい。

「富国強兵、産めよ増やせ」父は、満州・支那・大東亜(事変、戦争)に出征。母は、8人の子供を産み育てた。(貧乏人の子だくさん)影響は各家族になっても続く。

家は代々仏教徒で、子どものころはお寺の日曜学校に行った。ひよんなことで、カトリックの洗礼を受けて60年が過ぎた。職業が船員で、妻とは別居が多かった。祈りは一緒にしていたが、妻は洗礼を受けていなかった。

定年退職して、先を考えるようになって、「死んだらどうなるの?」と妻が言った。「また、別居かな」と答えた。当方、よろず(万代)の神々も、仏も、無神論者もすべて、全能の神の「もと」にあるのだから、他人の居場所については、あまり気にしないようにしてきた。本当に信じられる「もと」にすることが一番幸せだと思っているから、強要されたくないし、したくない。老妻は洗礼を受ける気になった。そして、Yシスターが拙宅に来られて公教要理をしてくださった。洗礼を受け、堅信を受けて20年になる。聖霊のご手配に不思議を思うことがある。

「チャレンジ」に試行錯誤して、そして祈り「言うべきこと(行うこと)は聖霊がそのとき教えてくださる」ルカ12-12

(毎日の黙想)誌、待降節第4主日のページに「毎朝目をさまして、その日待ち受ける、チャレンジについて考え始める時、毎日共に過ごす、友だちのように神と共におられることを思い出してください」とあった。

インマヌエル=励まし、勇気をいただく。老齢=人生の残りがすくなくなっている、間食夕食をやめて3ヶ月、胃腸に休養、予算を奉仕に、「石の上にも三年」先ずは頑張ってみたい。できてもできなくても、聖霊がなんとかしてくださる。

昨年、拙宅屋根裏のスズメ蜂の巣を退治

して、左眼奥の網膜に出血した。いちばん一番慌てたのが家内。「家庭へのチャレンジ」は目標を誤らないようにしたい。

江原 彰一

**下関ブロック福祉部活動情報交換会**

1月21日(土)13:30~15:00

下関ブロック福祉部『てとてとて』の呼びかけで、それぞれの小教区での病人訪問や様々なボランティア活動の情報交換会を開きました。

長府教会10名、彦島教会6名、細江教会6名、合わせて22名の参加がありました。参加者の主な活動内容は聖体奉仕と合わせての病人訪問と福祉部活動でした。それぞれの活動に基づいた活発な情報交換ができました。何点か要約いたします。

《病人訪問・聖体奉仕について》

*教会から訪問してほしい人もあったり、また、行かないと「教会は冷たい」と言う声が聞こえてきたりする。相手の真意を見極めるのは難しい。

*体調が悪い時もあるだろうから、断られたらさりげなく「また来ますね」少し、日時を置いて訪ねてみる。

*その方と馴染みのある人がいればその人と訪問するようにしている。

*元気で教会に来ておられた頃の友人を誘って一緒に訪問すると喜ばれる

*本人が「聖体」が欲しいと言われて授けたら誤嚥し、看護師に怒られたことがあった。本人は誤嚥しやすいと自覚がない場合があるので、特にターミナル期(終末期)は看護師等への相談、連携が必要。

*やはり、神父様が行かれると喜ばれる。

*教会への足がない方の車の送迎。

《福祉活動》

*手仕事の好きな人たちのグループ。月2回集まっている。クリスマス・コンサートに出店して販売。一昨年からはペトロ祭にて販売し収益を寄付。(細江)

*熊本震災後のボランティアへ。2016年9

月～2017年3月まで毎月一回。ベトナムからの留学生などへの支援(月一回、ミサ後食事会)、中部学園の里親になっている人もいます。(彦島)

まとめ

今回初めての試みとして、情報交換会を呼びかけました所、予想以上に沢山の方にお集まりいただき、また、デスクッションの内容も豊かで楽しく有意義な時間になりました。

今回の情報交換で見えてきたことは、訪問していた方々が亡くなり、病人訪問する方が全体的に数が減ってきていることでした。

現在教会から疎遠になっておられる方に、時にお手紙などで繋がりを持つことも大切かなと思ったことと、また、貧困などから満足に食事を食べられない子供たちへの支援や、親からの虐待・育児放棄などから施設等で暮らしている子供たちも近年急増している状態と聞きます。身近なこの地域社会にも少し目を向けて関心を持つことも大事ではないかと思いました。そうすれば、何か私たちでもできる事が見えてくるのではないのでしょうか。それがたとえどんなに小さなことであつたとしても、と思った次第です。



鳥居 紀子

週間中に豊かなお恵みをいただきました。

皆さま方の周到な準備のうちに、58名の参加者と実りある祈祷集会となりましたこと感謝でした。

岸下 邦子



* 愛の欠如・憎しみと軽蔑・不当な告発・差別・迫害・失われた交わり・不寛容・宗教戦争・分裂・権力の乱用・孤立・高慢さ・・・罪と分裂を象徴する「隔ての壁」。



* 和解し、壁を崩し石を十字架の形に。

キリスト教一致祈祷集会 1/19 (木)

集会に参加して・・・

恥ずかしながら彦島教会には一人では行ったことがなく、故パラシオス神父様から連れられて行ったきりでした。

今年は宗教改革から500年目にあたります。教会の分裂と共に、私たちも自分の間を隔てている壁があります。一つ一つの壁を取り除き、神のゆるしを求めるために皆さんとともに祈りいたしました。

彦島教会の方々から祈りに誘導して下さるさまは、静かに祈りの中で心慰められ平安なひと時でした。18日～25日の祈祷



* 細江教会では、日曜日のミサの中でキリスト教一致の祈りを行った。

「わたしたちの罪を告白し、分裂のために生じた傷をいやし、ゆるして下さるように祈りましょう。」

防災研修会 1/29 (日)

百瀬神父様と各地区の 25 名が参加し、火消くじら館で、防災研修を受けました。

今回は、指令室を見学し、地震についてのスライドを見た後、実際に消火器で火を消す体験をさせてもらい、最後に煙の部屋を抜け出す練習をしました。

3階にある指令室(119番を受ける部屋)は機械が高価なため、下関市と美祢市が合同の署になっており、例えば秋芳洞で119番通報があっても、ここで対応するとのことでした。部屋の隊員の席に赤・黄色・緑ポールが立っており、赤は火災、黄色は警戒を、緑は救急を知らせるものでした。見学している時に、救急を必要とする緑のランプが付き、少し緊張感を覚えました。床には二重の耐震構造になって機器を守っている。隣には災害時の作戦室があり、昨年の熊本地震や広島土砂災害時は、山口県から49部隊180名が出動したそうです。

消火器の使い方の注意点は、15秒しか消火液が出ないので、火を消すのは手前から掃くように、しかも炎にかけるのではなく、燃えている物を狙ってかけることが大切だとわかりました。

火災を見つけたら、誰かが連絡してくれているだろうと思わず、まず自分が連絡すること。もし火の中に人がいても決して戻らないこと。そして連絡時に火の中に人がいることを伝えれば、消防士たちはそのことを頭に置いて火災現場に向かってくれます。宿泊先では、非常口を必ず確かめておくなどのお話がありました。

先日、ストーブの給油タンクに灯油を入れていたらポンプのつまみがうまくいかず、タンクから溢れ、床に流れてしまいました。下の階に降りてみると天井から灯油が滲んでポタポタ落ちていて、しかもその下にはコンロ台があり、火を使っていたら・・・と思うと、ゾッとしました。思いがけないことが起きて火災になるのだと肝に銘じました。

この日は、ちょうど Dr. ヘリが到着し、実際に救急搬送を見る機会がありました。署の敷地内は広くて、月に数回 Dr. ヘリが到着するそうです。傍まで行って中も見学させていただき、大事な命を預かる救急隊

の方々の身に引き締まるような動きに感謝し、改めて防災に対する意識を深める貴重な時間を過ごしました。

中央地区 林 恵子



*黄色のレバーを真上に引いて、ホースの先を火元に、消火器の使用訓練。



*山口県に一台しかないドクター・ヘリ。

幼稚園の餅つき、ホットな一コマ

*さよちゃんと
ママと弟の采くんとでお餅つき体験、楽しかった?・・・けれど少し寒い日。

編集後記

大人のインフルエンザが増えています。まずは、手洗い喉ガラガラと栄養、体力作りとマスク。

皆さま、くれぐれも気をつけてくださいね。
私は頑丈でウイルスが逃げていく。(K・K)